

平成21年10月9日

南丹市行政評価推進委員会 資料1

平成21年度

南丹市行政評価推進委員会報告書

(案)

平成21年10月

南丹市行政評価推進委員会

目 次

1	はじめに.....	1
2	行政評価推進委員会の経過.....	1
	（ア） 評価対象施策.....	1
	（イ） 行政評価推進委員会の開催状況	2
3	評価の視点	2
	（ア） 施策評価におけるチェックポイント	3
4	評価の結果	4
5	評価結果の総括.....	9
	（ア） 評価の進め方について.....	9
	（イ） 施策の推進の状況について.....	9
	（ウ） 評価シートの様式、記載内容について	9
	（エ） 説明職員の対応について	9
6	おわりに.....	10

1 はじめに

南丹市における行政評価の取組みは、平成20年度に平成19年度実施事業のうち、74事業を抽出して、事務事業評価が実施されました。

これを受けて、本委員会では、74事業の中から2施策に関連する12事業を、外部評価の対象として、内部評価の客観性、妥当性などについて、検証を行ったところです。

2年目となる今年度は、前年度の取組みの反省から、総合振興計画の着実な推進を図るため、南丹市の内部評価において、施策を中心とした評価とすべく、評価手法が見直されました。

本委員会としても、これに基づき、総合振興計画に定める23施策のうち、11施策を抽出し、市の内部評価に対し、有効性、効率性、公共性などの観点から、検証を行いました。

2 行政評価推進委員会の経過

本委員会は、市が作成した施策評価表、事業評価表及び事業活動記録に基づき、23施策（410事業）のうち、11施策（132事業）を抽出し、事業担当部局からヒアリングを実施しました。また、ヒアリングにおける説明や質疑を踏まえ、委員ごとに指摘事項を出し合い、委員会として合議により意見のとりまとめを行いました。

(ア) 評価対象施策

章	節	施策名	構成事業数	主管部局
第1章		生涯充実して暮らせる都市を創る		
	第2節	明日を担い、内外で活躍する人を育てる	30	教育委員会
	第3節	生涯にわたって学び、活かす機会をつくる	31	教育委員会
第2章		自然・文化・人を生かした郷を創る		
	第5節	伝統文化を継承する	14	教育委員会
第3章		人・物・情報を高度につなげる		
	第1節	高速移動の網を広げる	0	土木建築部
	第2節	鉄道を更に便利にする	8	企画管理部
	第3節	安全で快適な主要道路でつなぐ	6	土木建築部
	第4節	誰もが安心な地域交通システムをつくる	4	企画管理部
	第5節	双方向の情報通信基盤をつくる	3	企画管理部
	第6節	にぎわいの市街地をつくる	8	土木建築部

第4章		共に担うまちづくりの仕組みを築く		
	第1節	共に生きるまちづくりを進める	20	市民部
	第6節	行財政改革を推進する	8	総合政策室

(イ) 行政評価推進委員会の開催状況

会 議	開 催 日	内 容
第1回委員会	平成21年7月2日	<ul style="list-style-type: none"> ○平成20年度行政評価の取り組みに関する総括について ○平成20年度行政評価の結果を踏まえた取り組みについて ○平成21年度行政評価推進委員会の進め方について ○施策評価 <ul style="list-style-type: none"> ・1-2 明日を担い内外で活躍する人を育てる ・2-5 伝統文化を継承する
第2回委員会	平成21年7月29日	<ul style="list-style-type: none"> ○施策評価 <ul style="list-style-type: none"> ・3-5 双方向の情報通信基盤をつくる ・3-4 誰もが安心な地域交通システムをつくる ・3-2 鉄道を更に便利にする
第3回委員会	平成21年8月27日	<ul style="list-style-type: none"> ○施策評価 <ul style="list-style-type: none"> ・3-1 高速移動の網を広げる ・3-3 安全で快適な主要道路でつなぐ ・にぎわいの市街地をつくる
第4回委員会	平成21年9月14日	<ul style="list-style-type: none"> ○施策評価 <ul style="list-style-type: none"> ・4-1 共に生きるまちづくりを進める ・1-3 生涯にわたって学び、活かす機会をつくる ・4-6 行財政改革を推進する
第5回委員会	平成21年10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ○平成21年度外部評価の総括について ○平成21年度行政評価推進委員会報告書について

3 評価の視点

評価は、施策ごとにヒアリングを行い、その中で質疑、意見交換を行いました。

評価に当たっては、次のチェックポイントにより、施策及びその施策に該当する事業

を通じて、「優」・「良」・「可」・「不可」の判定を行いました。

(ア) 施策評価におけるチェックポイント

評価項目	チェックポイント
課題について	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は明確か ・課題の根拠は明確か（課題だといえる根拠は何か） ・課題に取り組む必要性は明確か（なぜ、取り組まなければならないのか） ・市が取り組む必要性は明確か（なぜ、南丹市が取り組む必要があるのか） など
目的について	<ul style="list-style-type: none"> ・目的の方向性は明確か（実現しようとする状態は何か） ・目的の必要性は明確か（なぜ、その方向へ向かうのか〔課題の必要性と同じ場合あり〕） ・市が取り組む方向として妥当か〔課題に取り組む必要性と同じ場合あり〕 など
目標について	<ul style="list-style-type: none"> ・到達しようとする目標は明確か ・目標の根拠が明確か（達成目標が意味のあるものとなっているか） ・目的の方向性と目標が合致しているか ・成果の測定は合理的で十分か ・成果の発現は十分か など
関係について	<ul style="list-style-type: none"> ・総合振興計画が目指す方向性と合致した方向性となっているか ・他の関連施策や事業との連携は図れているか など
事業について	<ul style="list-style-type: none"> ・目的達成に向けた課題解決策は適切か ・目標達成に向けた効果的な活動内容となっているか など
トについて	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト配分は適切か ・効率的な施策（事業）執行となっているか など
の方向性について	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況について適格な評価となっているか ・目標設定や施策の考え方の見直し、展開の方向性が明確か ・活動内容（事業）の方向性は明確か など
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の推進による弊害は生じていないか ・市民へ説明やアピールは十分行えているか など

4 評価の結果

章	節	施策名	判定
第1章		生涯充実して暮らせる都市を創る	
	第2節	明日を担い、内外で活躍する人を育てる	可
		<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口の将来予測として、子どもの数の減少とそれに伴う複式学級の発生見込みということは、かなり重要なポイントであるが、評価表に記載がない。複式学級になっていくことが見込まれていることをどう考え、対応するかを明確にすべきである。 ・ 少人数で学んでいることについての評価がされていない。 ・ 学力標準値が全国平均で概ね良好であっても、なかっても、次に学べる基礎をどのように小学校でつくるかが大事。 ・ 学校施設の耐震化ということについては、緊急度を評価の中に盛り込むことが必要である。 ・ 子どもの教育については、市民としても非常に関心が高い分野であり、課題や可能性について、わかりやすく説明ができること。 ・ 目的とそれに対応する解決策などをもう少し分割して記載したほうが分かりやすい。 	
第3節	生涯にわたって学び、活かす機会をつくる	良	
	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合併したのに何も変わっていないということであれば、何のために合併したのかよく分からない。 ・ 体育施設を舞台に旧町の枠を超えて交流してほしいなら、体育館や運動公園が旧4町それぞれにある意味がよく分からない。一般的には統合すべき。 ・ いかにも施設が多すぎるという印象は、拭いがたい。 ・ 施設の廃止や転用について、本格的に、長期的な展望で考える体制なり、何なりは必要である。 ・ 図書館の貸出の回転率が悪い。近くにあっても使わないのであれば、統合すればいいという議論になる。 ・ 生涯学習の施策は、いつまで、どこをゴールに行政がやり続けるのか。講座の面倒を見るのではなく、自主的な活動を促し、自分たちであまりやらなかったら、そこからは撤退するということがあってもよい。 		

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習だけではなく、これだけの施設をどう使うのかということが見えてこない。 ・ スポーツ振興に使ったお金と医療費の関係も考慮が必要である。 ・ 民間とかぶっている部分であり、何故行政がするのか、どの部分までするのかというしっかりとした考えを求められる。 ・ お金がない場合は、考え直さなければならないということも出てくる分野である。 ・ 人口規模に対して、施設が多すぎる。緩やかな合併ということで推移したと思うが、すでに4年、また今後何年か経つ中で、そろそろ展望を持って、真剣に考える時期である。
第2章	自然・文化・人を生かした郷を創る	
	第5節	<p>伝統文化を継承する</p> <p>良</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何故、歴史文化遺産を継承しなければならないのかという理念を持っておかないと、財政が厳しくなれば、どんどん予算が削られる。 ・ 無形のものにしても、有形のものにしても、その時代により変化しているので、保存継承だけでなく、「発展」も視野に入れて取り組むべき。 ・ 文化を観光資源として如何に活用し、収入に結びつけるかというところを具体化していくことが必要。 ・ 評価表等の記載のなかに、前向きな方向性が出てきていない。 ・ 評価表のまとめ方をもう少し整理が必要。
第3章	人・物・情報を高度につなげる	
	第1節	<p>高速移動の網を広げる</p> <p>評価せず</p> <p>【意見】主体が南丹市ではなく、コストの計上もないことから、評価は行わず、意見を述べるにとどめることとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体が南丹市ではなく、何をどう評価するかが難しい。 ・ 施策評価というのは、費用対効果を考えないといけないが、費用が出ていないので、評価のしようがない。 ・ ハード事業は、完了したあとの評価をあまりしていないことが一番問題。成果をまとめて表に入れると市民にも分かりやすい。 ・ 縦貫道だけでなく、ネットワークとしての評価をしたほうが分かりやすい。

	第2節	鉄道を更に便利にする	良
		【意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 複線電化に合わせていくつもの施策を連動するようなプロジェクトチームとか何か仕掛けがあっても良いと思う。 ・ どういう仕掛けをしていくのかということが、これと関連する施策の中でどうなっているのかということが大事。 ・ 複線化を機に、子育て支援、鉄道便利化、観光、広報、大学連携、都市整備、雇用の場づくり、コミュニティへの取り込みなどの総合的な対策を期待する。 ・ 基本的に便利になって、京都と園部の間は人が多く行き来するという前提で、いろいろな動きが変わるはずなので、その対応を考えておくことが必要。 ・ 線路をコアにおいた形で、道路網があり、道路のうえにはバス等があるので、それらをつなげた活性化策が必要。 	
	第3節	安全で快適な主要道路でつなぐ	良
		【意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・ これからは維持管理のほうが大事。 ・ 判定基準を持って、優先順位をつけて進めていること、維持管理が重要であるという方向に意識を持って変えていったことは評価できる。 ・ しかし、そのことが施策評価表、事業評価表の中に見られないのは減点対象。 ・ 道路整備の目標と、目標達成に向けた課題を示し、それに対してどの程度改良できたかを表現しなければ、成果が伝わらない。 ・ 効率的に発注ができているのか、できるだけリーズナブルなコストで出来ているのかということが市民の気になるところ。 ・ 評価表に書かれていないことが、質問によって明らかになるということは、その辺の重要性を認識していないということ。市民への説明をもっと上手にすることが必要。 	
	第4節	誰もが安心な地域交通システムをつくる	良
		【意見】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 広い市域を公共交通機関で移動できるようにする必要があること、スクールバスと民間のものをうまく組み合わせたら効率が良いことは分かるが、実際問題として許容しうるコストで全体の交通網が維持できているのかというところが問題。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通弱者に対する部分は税金で行う部分もあるが、ある程度効率性が要求される部分である。 ・ 乗客が少ない路線、便は小型の車を運行するという考え方も必要である。 ・ 広域な地域で、路線をきちっと決めてバスを運行することは不可能に近い。 ・ NPOとか小回りのきくアイデアも必要。 ・ 困っているのは、車の運転ができない人で、生活基盤として移動手段のない人はあると思うので、その研究が必要。 ・ 人口の稠密さからいうと路線バスが必要な人口はいない。 ・ どれくらい困った人がいるかという実態を把握して、対策を考えることが必要。 ・ 交通弱者の目線に近いところでバスを動かすとか、乗務員にもっと考えてもらって、路線と運行をもっと柔軟にしたほうが、目的にマッチする。 ・ 利用者の実態に合わせて、フレキシブルに路線などの見直しを行うこと。 ・ 政策から施策、事業を考えるという趣旨のものであるということで施策評価表、事業評価表を記載すること。 ・ ある程度企業性を持てる路線と無理な路線、スクールバスの部分が渾然一体となっており、評価しにくい。 				
	第5節	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%; padding: 5px;"> 双方向の情報通信基盤をつくる </td> <td style="width: 30%; text-align: center; padding: 5px;"> 良 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八木地域については、共聴施設がなくても、8割がテレビの視聴ができるという中で、CATV網の整備が必要であった根拠を明確にすべき。 ・ 市全域にCATV網を整備し、情報を共有するというのと費用の検証が必要。 ・ 情報通信基盤の活用について、どこかでコントロールし、総括して全体としての評価をすることが必要。 ・ 園部には民間事業者の参入がある中、市として光ケーブルに替えるのかという検討が必要。 ・ 整備と更新のときの技術的な配慮を十分していただきたい。 ・ 費用と運営が適正かどうかの判断は難しい。 ・ 園部地区が同軸ケーブルによる接続のままであるという課題があるのに、それに対する改善策が分かりにくい。 </td> </tr> </table>	双方向の情報通信基盤をつくる	良	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八木地域については、共聴施設がなくても、8割がテレビの視聴ができるという中で、CATV網の整備が必要であった根拠を明確にすべき。 ・ 市全域にCATV網を整備し、情報を共有するというのと費用の検証が必要。 ・ 情報通信基盤の活用について、どこかでコントロールし、総括して全体としての評価をすることが必要。 ・ 園部には民間事業者の参入がある中、市として光ケーブルに替えるのかという検討が必要。 ・ 整備と更新のときの技術的な配慮を十分していただきたい。 ・ 費用と運営が適正かどうかの判断は難しい。 ・ 園部地区が同軸ケーブルによる接続のままであるという課題があるのに、それに対する改善策が分かりにくい。 	
双方向の情報通信基盤をつくる	良					
<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 八木地域については、共聴施設がなくても、8割がテレビの視聴ができるという中で、CATV網の整備が必要であった根拠を明確にすべき。 ・ 市全域にCATV網を整備し、情報を共有するというのと費用の検証が必要。 ・ 情報通信基盤の活用について、どこかでコントロールし、総括して全体としての評価をすることが必要。 ・ 園部には民間事業者の参入がある中、市として光ケーブルに替えるのかという検討が必要。 ・ 整備と更新のときの技術的な配慮を十分していただきたい。 ・ 費用と運営が適正かどうかの判断は難しい。 ・ 園部地区が同軸ケーブルによる接続のままであるという課題があるのに、それに対する改善策が分かりにくい。 						

		<ul style="list-style-type: none"> コストがどれくらい回収できるのか、お金として回収できなくても、うまく活用していくという意味で回収できていくのかということが分からない。 				
	第6節	<table border="1"> <tr> <td>にぎわいの市街地をつくる</td> <td>良</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 【意見】 <ul style="list-style-type: none"> 市内で、あるいは中心街で購買活動を高めていくという努力は、まちづくりに参加していただくということしかない。 区画整理に大きな費用をかけた本町地区ににぎわいをどう生み出すかは今後の大きな問題。駅から本町にどうして人を寄せるか、ビジョンが必要である 商工振興助成について、組織にまとめて助成しているが、本当に頑張ろうとしているのがどこで、どんな動きがあって、どんな支援をしようとしているのかが分からない。 J R 園部駅をどうするのかということが南丹市にとって一番大きな課題のはず。市街地にしても、にぎわいをつくるにしても、J R 園部駅をどうするのかということが見えてこない。 </td> </tr> </table>	にぎわいの市街地をつくる	良	【意見】 <ul style="list-style-type: none"> 市内で、あるいは中心街で購買活動を高めていくという努力は、まちづくりに参加していただくということしかない。 区画整理に大きな費用をかけた本町地区ににぎわいをどう生み出すかは今後の大きな問題。駅から本町にどうして人を寄せるか、ビジョンが必要である 商工振興助成について、組織にまとめて助成しているが、本当に頑張ろうとしているのがどこで、どんな動きがあって、どんな支援をしようとしているのかが分からない。 J R 園部駅をどうするのかということが南丹市にとって一番大きな課題のはず。市街地にしても、にぎわいをつくるにしても、J R 園部駅をどうするのかということが見えてこない。 	
にぎわいの市街地をつくる	良					
【意見】 <ul style="list-style-type: none"> 市内で、あるいは中心街で購買活動を高めていくという努力は、まちづくりに参加していただくということしかない。 区画整理に大きな費用をかけた本町地区ににぎわいをどう生み出すかは今後の大きな問題。駅から本町にどうして人を寄せるか、ビジョンが必要である 商工振興助成について、組織にまとめて助成しているが、本当に頑張ろうとしているのがどこで、どんな動きがあって、どんな支援をしようとしているのかが分からない。 J R 園部駅をどうするのかということが南丹市にとって一番大きな課題のはず。市街地にしても、にぎわいをつくるにしても、J R 園部駅をどうするのかということが見えてこない。 						
第4章	共に担うまちづくりの仕組みを築く					
	第1節	<table border="1"> <tr> <td>共に生きるまちづくりを進める</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 【意見】 <ul style="list-style-type: none"> 地域センターでの講座や交流を軸にした取組をメインとして、対処するという方針が評価表からは分かりにくい。 これだけの数の地域センターが必要であるということがどこにも積極的に書かれていない。 事業活動記録にも参加者数等の記載がない。効果が見えない。 地域分担制の導入検討や、助言者体制などは評価できる。 将来の展望が、共有できているかがポイントで、そのストーリーが見えない。 毎年取組みが前進しているのか、いないのかが分かるような材料が提示されるべきである。 たくさんある施設が今の時点では必要ということだが、時間の経過とともに、うまく、最適に配置されていくということは考えなければならない。 目的は明確でよいが、課題の原因で人権意識が低い、浸透していないだけで、今まで啓発をしてきて直ったのかという捉え方がない。 女性、子ども、高齢者や障がいのある人に対する差別がある中 </td> </tr> </table>	共に生きるまちづくりを進める	可	【意見】 <ul style="list-style-type: none"> 地域センターでの講座や交流を軸にした取組をメインとして、対処するという方針が評価表からは分かりにくい。 これだけの数の地域センターが必要であるということがどこにも積極的に書かれていない。 事業活動記録にも参加者数等の記載がない。効果が見えない。 地域分担制の導入検討や、助言者体制などは評価できる。 将来の展望が、共有できているかがポイントで、そのストーリーが見えない。 毎年取組みが前進しているのか、いないのかが分かるような材料が提示されるべきである。 たくさんある施設が今の時点では必要ということだが、時間の経過とともに、うまく、最適に配置されていくということは考えなければならない。 目的は明確でよいが、課題の原因で人権意識が低い、浸透していないだけで、今まで啓発をしてきて直ったのかという捉え方がない。 女性、子ども、高齢者や障がいのある人に対する差別がある中 	
共に生きるまちづくりを進める	可					
【意見】 <ul style="list-style-type: none"> 地域センターでの講座や交流を軸にした取組をメインとして、対処するという方針が評価表からは分かりにくい。 これだけの数の地域センターが必要であるということがどこにも積極的に書かれていない。 事業活動記録にも参加者数等の記載がない。効果が見えない。 地域分担制の導入検討や、助言者体制などは評価できる。 将来の展望が、共有できているかがポイントで、そのストーリーが見えない。 毎年取組みが前進しているのか、いないのかが分かるような材料が提示されるべきである。 たくさんある施設が今の時点では必要ということだが、時間の経過とともに、うまく、最適に配置されていくということは考えなければならない。 目的は明確でよいが、課題の原因で人権意識が低い、浸透していないだけで、今まで啓発をしてきて直ったのかという捉え方がない。 女性、子ども、高齢者や障がいのある人に対する差別がある中 						

		<p>で、歴史的経緯はあるかもしれないが、同和事業に偏りすぎている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単に既得権を守ってきただけではないか。 ・ 総合評価で、ものすごく抽象的なことが書いてあり、将来が見えていない。
	第6節	<p>行財政改革を推進する</p> <p style="text-align: right;">良</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の適正配置がうまくできているかというところなどが、シートに表れないことが気になる。 ・ 昨年度からの取組みによる効果についての記載がない。 ・ 行財政改革の推進という施策に直結していない事業が多い。 ・ 評価表や事業活動記録、補足資料については、昨年よりはよくなっている。 ・ 施策の説明に当たって、施策や事業の必要性、内容の妥当性などを明確に説明することが必要である。また、そうできることが意識改革され、行動も変わったという結果である。 ・ 予算外の改革努力は当然あるはずだが、それが評価表にはでてこない。その部分が心配である。 ・ 財政の危機的な状況からすると、このペースでこんなことをしていて大丈夫かという不安がある。 ・ 評価シートの書き方自体はまだ問題がある。 ・ 今まで職員にプレゼンをするという意識がなかったと思う。書いてみることによって、どれだけ意識が変わるのかということの評価に記載してほしい。市民にこう変わりましたということをアピールしながら、行財政改革を進めなければならない。

5 評価結果の総括

(ア) 評価の進め方について

(イ) 施策の推進の状況について

(ウ) 評価シートの様式、記載内容について

(エ) 説明職員の対応について

左記の項目等について、
評価できる点、改善を求
める点等のご意見をお
願います。

6 おわりに

「おわりに」として記載すべき事項についてのご意見を願います。

南丹市行政評価推進委員会

委員長 四方宏治

委員 窪田好男

谷口和久

宮本三恵子

村上幸隆